

(六)	が	他	で	自	自	自	(五)	(四)	(三)	(二)	(一)			
a	え	者	あ	分	己	分	裏切りつつ変化していった当人の生の動きを自らの内に追体験すること。	ある死者が残した様々な足跡を追うことで、そのつど与えられる像を	自分の動きを含んでおらず、生成する自己の一面でしかないということ。	ある時点で他者が認めた自分らしさは、その認定とともに変容していく	ままにならぬ他者からの応答によって再構成されて初めて成立するから。	自分らしさをもたざる生成の運動は、世界に対する自分の働きかけが、意の	統合されていくはずの過去の自分と、現在の自分と別に設定して、るから。	過去を現在の自己の差異を貫く不変の自己という発想は、現在の自分に
獲得	る	に	り	や	が	ら								
b	と	よ	つ	他	組	し								
高	き	づ	人	み	さ	と								
潔	に	て	け	が	か	は								
c	立	感	よ	認	え	は								
依	ち	じ	う	め	ら	他								
然	現	と	と	る	れ	者								
依然	れ	ら	す	自	ら	と								
	る	れ	る	ら	動	の								
	も	の	動	の	き	の								
	の	他	き	イ	の	応								
	で	者	が	メ	方	答								
	あ	の	の	ー	向	の								
る	う	死	ジ	性	中									
依然	。	ち	し	か	で	で								
		に	て	ら	あ	不								
		よ	な	ら	り	断								
		み	お	自	由	に								
				由										
				由										

第三問

(五)	(四)	(三)	(二)	(一)
<p>高西園は今の世にあつて画や詩の分野で先人の高雅な風格を受け継ぐことのできた人物であった。</p>	<p>誰がおまえの大事な物を奪い取つたりするのか、おまえの物を取らざる愚か者などいふはうがたない。</p>	<p>司馬相如の玉刺衣の印と高西園自身の妻。</p>	<p>不</p>	<p>前漢の司馬相如の名利を携えた人物が自分に面会を求め夢を見たが、何の前兆がわからなかつたということ。</p>

第四問

(四)	(三)	(二)	(一)
<p>そうした臭いを慕わしく思い出してしまふほど、不可解なものだということ。</p>	<p>猫への人の気持ちは、汚く臭い病猫だからこそもむしろ愛着を強め、死後もなお、慈悲を与えて喜ぶ気持ちは喚起されたからだと、気がつき始めたということ。</p>	<p>自分が病猫を助けたのは、慈悲心があったからではなく、猫の傷けな様子によって、猫を間接的に苦しみを与えたとする罪悪感から助けてしまったということ。</p>	<p>親に拒絶され、野生の掟に従って健気に自立し、遙かに続く自然の営みと一体化していく子猫たちの運命を想像して、深い安らぎと感動を覚えるということ。</p>